

令和6年度 社会教育情報誌

「きばっど」 南薩の社会教育

国選択無形民俗文化財

浦

島

太

郎

薩摩の水車からくり

国選択無形民俗文化財
(県指定有形民俗文化財)
薩摩の水からくり
(知覧の水カラクリ)
(令和6年7月7日撮影)

令和7年3月発行

南薩地区社会教育振興会

1 社会教育委員

【全国社会教育委員連合表彰】

・堀口 なり子（指宿市）

【社会教育功労者表彰】

・山崎 貴美子（南九州市）

2 P T A関係

【優良P T A文部科学大臣表彰】

・枕崎市立別府中学校P T A（枕崎市）

【県P T A連合会団体表彰】

・南九州市P T A連絡協議会（南九州市）

3 公民館関係

【全国公民館連合会永年勤続職員表彰】

・今村 善哉（指宿市山川校区公民館館長）

【県公民館連絡協議会表彰】

・大久保 正一（指宿市魚見校区公民館館長）

4 社会教育振興会関係

【地区社会教育振興会表彰】

・大岩本 ひとみ（個人：指宿市）

・下野 二雄（個人：南さつま市）

・金山緑風会（団体：枕崎市）

・川畑道場（団体：南さつま市）

5 子ども会関係

【全国子ども会連合会表彰】

・川畑校区子ども会（団体：南さつま市）

・瀬戸 敏典（個人：南さつま市）

【県子ども会育成連絡協議会表彰】

・大木 哲也（個人：南さつま市）

・南九州市ジュニア・リーダークラブ

かなべ「なべ花火」（団体：南九州市）

【県優良少年少女団体及び地域高校生クラブ等表彰】

・俵積子ども会（枕崎市）

・渡瀬・鳥山子ども会（指宿市）

・ジュニア・リーダークラブ「BiSukY」（指宿市）

・網揚げ子ども会（南さつま市）

・新町子ども会（南九州市）

【地区子ども会育成連絡協議会表彰】

・塩屋子ども会（団体：枕崎市）

・旭町子ども会（団体：枕崎市）

・高野原子ども会（団体：指宿市）

・本町東区子ども会（団体：南さつま市）

・坂上・川原園・奥園子ども会（団体：南九州市）

・下舞 等（個人：指宿市）

・塗木 清久（個人：南九州市）

6 読書活動関係

【子どもの読書活動推進優良図書館等鹿児島県教育委員会表彰】

【子どもの読書活動推進優良団体】

・枕崎市読み聞かせボランティアグループ連絡会（枕崎市）

7 少年の主張鹿児島県大会

・優秀賞 山崎 麻悠（枕崎市立枕崎中学校3年）

・優良賞 神野 徠斗（南さつま市立金峰学園8年）

・優良賞 渡 心晴（南さつま市立加世田中学校3年）

8 人権教育関係

【人権作文コンテスト（鹿児島県大会）】

・最優秀賞 武元 柊也（南九州市立額娃小学校1年）

・優秀賞 福元 綾萌（指宿市立柳田小学校5年）

・奨励賞 田中 瑛麻（枕崎市立枕崎小学校2年）

・奨励賞 鉦之原 拓（南さつま市立加世田小学校3年）

・奨励賞 上村 一花（南さつま市立加世田中学校1年）

・奨励賞 江口 和花（南さつま市立加世田中学校1年）

・奨励賞 下村 綾音（南さつま市立大笠中学校3年）

【人権に関するポスターコンクール】

【全体の部 最優秀賞】

・山中 瑛太（南九州市立別府小学校2年）

【学校賞】

・南九州市立別府小学校（小学校低学年）

【優秀賞】

・西村 伊織（南九州市立別府小学校2年）

・湯之上 雄星（指宿市立山川小学校4年）

【入選】

・大迫 暖乃（南九州市立別府小学校2年）

・面牟田 倫太郎（南九州市立別府小学校2年）

・山下 雄大（南九州市立別府小学校2年）

・麻原 駿太（指宿市立柳田小学校2年）

・藤坂 一護（指宿市立今和泉小学校1年）

・中ノ森 環（南九州市立大丸小学校3年）

9 地域が育む「かごしまの教育」県民週間

【標語】

・特選 有島 芽衣（南さつま市立笠沙小学校2年）

・特選 高江 星来（南九州市立九玉小学校4年）

・特選 吉村 柚香（指宿市立山川小学校6年）

・入選 水堀 佑咲（南九州市立中福良小学校1年）

・入選 豊平 翔也（南さつま市立益山小学校2年）

・入選 西川 なつ（指宿市立開聞小学校4年）

・入選 今村 優真（南さつま市立加世田小学校5年）

・入選 崎向 結愛（南さつま市立大浦小学校6年）

【ポスター原画】

・特選 岩下 知禾（指宿市立山川小学校1年）

・特選 濱上 楓（指宿市立川尻小学校2年）

・特選 末永 和心（南九州市立大丸小学校4年）

・入選 小湊 瑛愛（枕崎市立桜山小学校1年）

・入選 上久保 美羽（南九州市立大丸小学校3年）

・入選 梶原 芽沙（指宿市立山川小学校4年）

・入選 前村 あいり（指宿市立柳田小学校5年）

10 「家庭の日」絵画・ポスター・標語

【絵画の部】

・最優秀賞 山下 雄大（南九州市立別府小学校2年）

・最優秀賞 阿久根 聖司（南さつま市立小湊小学校3年）

・優秀賞 道地 結菜（枕崎市立立神中学校1年）

・優良賞 川畑 壺心（南さつま市立加世田小学校1年）

・優良賞 黒瀬 結季（南さつま市立笠沙小学校1年）

・優良賞 山中 瑛太（南九州市立別府小学校2年）

・優良賞 野元 しずく（指宿市立池田小学校6年）

・優良賞 鉦之原 充瑛（南さつま市立加世田小学校6年）

・努力賞 大迫 楓（南さつま市立笠沙小学校1年）

・努力賞 永田 拓巳（南さつま市立笠沙小学校1年）

・努力賞 中木原 渚月（南九州市立別府小学校2年）

・努力賞 伊瀬知 親太朗（県立指宿特別支援学校4年）

・努力賞 西村 咲輝（県立指宿特別支援学校6年）

【ポスターの部】

・優秀賞 中村 品乃（指宿市立山川小学校6年）

・努力賞 内蘭 優心（県立指宿特別支援学校6年）

【絵画・ポスターの部：学校賞】

・優秀取組賞 南さつま市立笠沙小学校

【標語の部】

・優良賞 内蘭 優心（県立指宿特別支援学校6年）

・努力賞 水堀 希咲（南九州市立中福良小学校1年）

・努力賞 中村 吐希（南さつま市立小湊小学校2年）

・努力賞 西垂水 駿太（南九州市立中福良小学校3年）

・努力賞 新原 心愛（南さつま市立益山小学校6年）

11 キャリア教育優良教育委員会、学校及びP T A団体等
文部科学大臣表彰

【学校の部】

・南さつま市立坊津学園

12 文化財関係

【鹿児島県文化財功労者表彰】

・林 真古刀（南さつま市）

家庭の教育力の向上

南薩地区PTA役員等研修会



【講師：金子氏】

〔令和6年6月26日(水)：指宿市ふれあいプラザなのはな館〕

「協働から響働へ、新たな時代に向けたPTAの意義と可能性」を演題に、鹿児島大学法文学部法経社会学科准教授 金子 満 氏に講話をしていただきました。「人口減少等により、これまでの右肩上がりの社会モデルは通用しない新しい時代が到来する。」「様々な世代がお互いできることとできないことをうまく協力しながら、響働に向けて楽しく、わくわくしながら、時には使命感に燃えながら一緒にやるのが望ましい。」など、PTA活動に止まらず、

いろいろな場面で必要とされる考え方など多くのことを学ぶことができました。

その後の協議・情報交換は、3～5人の少人数グループで話し合いを行いました。小・中・高等学校の保護者や学校職員、行政の関係者が混ざったグループでの話し合いは、日頃話す機会の少ない方々が多く、新たな気付きや発見があり、充実した協議情報交換になりました。



【協議・情報交換】

今年度の研修会は、連携を深める意味で、地区PTA連絡協議会役員、各市PTA連絡協議会（連合会）役員、単位PTA役員以外に、各学校のPTA担当職員にも参加依頼をしました。

南薩地区PTA会員等教育講演会

〔令和6年10月24日(木)：南九州市知覧文化会館〕

講師に、株式会社ゆーりんプロ所属の 桑木 栄美里 氏を招いて、「逆境を乗り越え夢を掴むまで」と題して、講演をしていただきました。講演では、視力のハンデを抱えながらも、鹿児島から遠く離れた東京で声優や広告のナレーションなど「表現者」としての夢を明るく、元気に追い続ける姿をエピソードを交えながら話していただきました。そこには、自分の可能性を信じていつも背中を押してくれた家族、自分の可能性を見つけてくれた先生など、多くのサポーターの存在があったと話されました。そして、コミュニケーションをとることの大切さを指摘されました。



【講師：桑木氏】

公演後のアンケートには、「日頃の子どもの会話の中で、子どもが前向きになれる声掛けやコミュニケーションができていくか。」など、日常を振り返る感想が多くありました。そして、「子どもの可能性を信じ、前向きになれる声掛けができるようにしていきたい。」「桑木さんの家族のように、いつも子どもの応援団でいたい。」など、日々の子育てに頑張っている参加者（保護者）にとって、たくさんの学びの詰まった講演でした。そして、実際のナレーションや作文を朗読される場面では、その世界に引き込まれていくようで、表現することの素晴らしさと大切さを実感することができました。

参加者（保護者）からは、「子どもたちにも話をしていただきたい。」との声も多く寄せられました。

県PTA研究大会・県PTA活動研究委嘱公開

〔令和6年12月7日(土)：枕崎市市民会館〕



【火の神乙女太鼓 爽】

「地域のつながりを最大限に生かした枕崎ならではの持続可能なPTA活動はどうあればよいか」を研究主題に、鹿児島県PTA研究大会・PTA活動研究



【進行役の高校生】

委嘱公開枕崎大会が盛大に開催されました。

「火の神乙女太鼓 爽」による演奏の後、枕崎小学校・枕崎中学校PTAからそれぞれ「地域とつながり、持続可能なPTAを目指して」、「地域に根差し、持続可能なPTA活動の展開に向けて」と題して活動発表がありました。PTA会員が減少する中で、組織改革や地域との繋がりを深める活動など、他のPTAにおいても参考になる内容でした。そして、一般社団法人 Loska 代表理事 藤原 奈美 氏の講演では、子どもとの向き合い方など多くのことを学びました。



【枕崎小学校PTA】



【枕崎中学校PTA】

大会を通して、社会が大きく変化する中でのPTAの在り方、その存在意義を改めて考える素晴らしい機会になりました。また、高校生による全体進行も新鮮で、地域との強い繋がりを感じることができました。

地域の教育力の向上

南薩地区社会教育振興会表彰式・総会

〔令和6年5月14日(火):南九州市知覧文化会館〕

総会に先立って行われた表彰式で、長年にわたり地域の活性化や子どもの健全育成に御尽力いただいた、個人2人と2団体へ感謝状を贈呈しました。授賞者を代表して挨拶していただいた下野様からは、感謝とこれからも頑張りたいと心強いお言葉をいただきました。表彰を受けられたのは、次の方々です。

- ・大岩本ひとみ 様 (指宿市)
- ・下野二雄 様 (南さつま市)
- ・金山緑風会 様 (枕崎市)
- ・川畑道場 様 (南さつま市)

総会では、令和6年度の事業計画や予算案などの協議があり、その中で南薩地域を盛り上げていこうと、たくさんの意見が出されました。

【代表挨拶:下野 様】

【おめでとうございます！】



【大岩本 様】

【川畑道場 様】

【金山緑風会 様】

南薩地区社会教育・文化財・社会体育行政研修会

〔令和6年5月15日(水):サン・フレッシュ枕崎〕

「人権に配慮した行政の推進」が大切だと言われています。

そこで、今回の研修会では鹿児島大学法文学部法経社会学科准教授 酒井 佑輔 氏に、「人権を基盤とした人づくり・つながりづくり・地域づくりに向けて」と題して、人権を基盤とした多文化共生の重要性、地域に住む外国人と共生し相互理解を進める上で必要なことなどについて、新たな視点で講演をしていただきました。外国人の留学生や技能実習生の方々の増加とともに、その方々への対応が求められる中で、「外国人と日本人とのすみ分けを解消する交流」、「受け入れ側の心のゆとりの確保」、「人権に関する理解」など、多くのことを学びました。講演後、「外国人も地域づくりの担い手として、無理なく活躍できるような町にしていきたい。社会教育の役割・出番だと思う。」、「外国人に対するこれまでの考え方が、『共生』ではなく『すみ分け』であることに気付かされた。」などの感想が出され、新たな気付きや今後の活動のヒントがたくさん詰まった講演でした。



【講師:酒井 氏】

そして、「日本人(若者)でさえ出て行く地域・職場に、外国人がいたい・残りたいと思えるのか?」という問い掛けに、人口減少が大きな課題となる中、魅力ある地域づくりの大切さを強く感じました。

第1回南薩地区社会教育担当者研修会

〔令和6年7月4日(木):指宿市ふれあいプラザなのはな館〕

各市の社会教育推進上の課題を共有し、解決策を共に探るという目的で、毎年開催しています。

今年度は、全日空空輸株式会社・ANAあきんど株式会社鹿児島支店長 藤崎 美保 氏を招いて、キャリア形成、企業経営について講話をしていただきました。企業の中で、自分のキャリアをどのように積み上げ、会社の中で生かしてきたのか、日頃聞く機会が少ない話はとても興味深い内容でした。出席者からは、「これからの業務推進に参考になった。」との感想が多く寄せられました。

研修Ⅱでは社会教育行政推進上の課題や解決策を共有しました。共通する課題や解決策、新たな気付きがたくさんあり、有意義なグループ協議になりました。



【グループ協議】



【講師:藤崎 氏】

南薩地区自治公民館経営研究会 兼 人権教育ブロック別指導者研修会

〔令和6年8月27日(火):南さつま市民会館〕



【講師: 常深 氏】



地域の様々な活動の中心的存在として公民館の運営を担っている方々が、多様化する人権問題を学び、人権感覚を研ぎ澄ましていくことが差別のない社会、人権尊重の社会づくりへとつながります。そこで、今年度の研究会は「人権教育ブロック別指導者研修会」を兼ねて実施しました。講師に、県人権同和対策課人権教育研修推進員 常深 透 氏をお招きし、「誰もが幸せに生きるために ～無意識の思い込みはありませんか?～」と題して、講話をしていただきました。部落問題(同和問題)では「水平社宣言」の詳細な説明で理解を深めることができました。講話の中で、私たちの日常生活の中にある「自覚無き差別」の存在に気付き、無くしていくためにはお互いを認め合い、尊重することが大切であると強調されました。人柄が溢れる巧みな話術に、最後まで話に引き込まれていきました。



【坂口 氏】



【質疑応答】

講話後の事例発表は、「だれもが『主人公』『つながり』を広げる公民館」と題して、枕崎市桜山地区公民館館長 坂口 寛太郎 氏、同公民館主事 井上 幸則 氏のお二人にいただきました。住民のニーズに応える講座開設を工夫している内容でした。質疑応答では青少年講座やリクエスト講座など特色ある講座について質問が出されました。そして、館長の地域に対する熱意を多くの参加者が強く感じていました。

青少年の健全育成

南薩地区子ども会大会、育成者・指導者研修会 及び 指宿市子ども会大会

【オープニング:西指宿中・リコーダー部】

〔令和6年6月22日(土):指宿市開間総合体育館〕



【おめでとうございます!】

西指宿中学校リコーダー部によるオープニング演奏、表彰式、子ども会活動発表、子どもたちのふれあい活動、育成者・指導者への講演と盛りだくさんのプログラムでした。

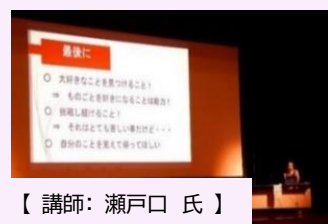
四つの子ども会による活動発表は堂々としていて、その取組は他の子ども会の参考になる素晴らしいものでした。ふれあい活動では、広いメインアリーナで歓声をあげながら、元気に駆け回る子どもたちの姿がありました。活動を通して多くの仲間とふれ合い、交流することができました。ふれあい活動と並行して行われた育成者・指導者研修は、「大好きを大きな力に!」と題した、指宿市職員とキックボクシング選手の2刀流を实践されている 瀬戸口 勝也 氏による講演でした。そのお話にとっても元気をいただきました。



【堂々の活動発表】



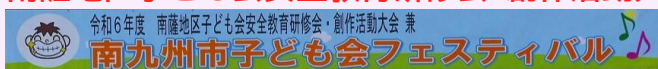
【元気いっぱい!】



【講師: 瀬戸口 氏】

南薩地区子ども会安全教育研修会・創作活動大会

〔令和6年9月8日(日):南九州市知覧体育館〕



開会行事の後、全国子ども会連合会表彰を受けられた南さつま市「川畑校区子ども会」様へ表彰伝達を行いました。

その後、ジュニア・リーダーの進行で、ふれあいワクワク広場を開催し、安全教育(KYT)、バルーンアートなどの創作活動やニュースポーツの体験活動に取り組みました。仲間同士や親子、みんなの笑顔あふれる創作活動大会でした。



【進行:ジュニア・リーダー】



【おめでとうございます!】



【安全教育(KYT)】



【創作活動】

南薩地区子ども会ジュニア・リーダー研修会

〔令和6年10月26日(土):枕崎市市民会館・桜山地区公民館〕



【 KYT活動 】



【 かつお船人飯 】



【 昔遊び:メンコ 】

午前中は、枕崎市桜山地区公民館でKYT活動（安全教育活動）を二つのグループに分かれて行いました。資料から危険な箇所を洗い出し、その対策を話し合い、全員で情報を共有しました。次に、枕崎市の基幹産業の鰹節について鰹の一本釣りから加工、商品化までの過程を学びました。鰹一釣りの元漁師の方から昔の漁の様子などを聞き、鰹と枕崎の深い関係を知ることができました。その鰹と鰹節を使った「かつお船人飯」と「かつお腹皮唐揚げ」を昼食でいただきました。



【 しゃべり場 】

午後は、枕崎市市民会館で昔遊び（独楽・メンコ・けん玉）に挑戦しました。ゲーム世代の子どもたちにとって新鮮だったのか、時間を忘れて熱中していました。

最後の「ししゃべり場」では、南薩の魅力について自由に意見交換をしました。特に、人口減少について、それに歯止めをかけるためにどのような対策が考えられるか真剣に協議しました。学校の異なる仲間との自由な意見交換や考え方の共有は、とても充実した時間でした。



地域文化の継承・発展, 文化財の保存・活用

南薩地区文化財保護審議会委員等研修会

〔令和6年6月5日(水):南さつま市ふれあいせだ・いにしへホール, 他〕

南さつま市いにしへホールを会場に、県教育庁文化財課（指定文化財係、埋蔵文化財係）の講話、研究事例発表、研究協議を行いました。県文化財課からは、令和6年度の県文化財行政の概要について講話がありました。

講話の後、指宿市教育委員会生涯学習課文化財係主査 松崎 大嗣 氏に、「南薩に広がる山川石製の墓石について」と題して、研究・事例発表をしていただきました。山川石の特徴や価値、山川石製墓石の分布から見えることなど、とても興味深い内容でした。

現地視察研修は、加世田麓にある「旧鰹坂家主屋（国



【 研究・事例発表：松崎 氏 】



【 研究協議 】

登録有形文化財)へ移動して、主屋内で南さつま市文化財保護審議会委員 井上 賢一 氏に加世田麓の成り立ちなど、詳細に説明していただきました。次に、鮫島博家へ移動し、「住宅主屋・蔵（国登録有形文化財）」を視察しました。家人の御厚意により主屋内も見せていただき、天井の梁の太さに圧倒されました。そして、門を前に南さつま市生涯学習課文化財係長 宮田 史裕 氏から修復の経緯や価値などについて説明を受けました。



【 鮫島家を前に 】



【 旧鰹坂家主屋 】



【 旧鰹坂家主屋内 】

南薩地区「指定文化財」巡視視察

〔令和6年11月14日(木):枕崎市市民会館, 他〕

【 松之尾貝製腕輪 】



【 硫黄山岩崎寺跡 】



今年度は、枕崎市文化財保護審議会会長 牛山 好治 氏に説明していただきながら、枕崎市指定の四つの文化財を視察しました。

「松之尾貝製腕輪」は、材料の貝に直接触れ、加工技術の高さを感じることができました。「硫黄山岩崎寺跡」では、寺の成立ち、歴史的背景の説明を受けながら、他地域との深い繋がりを感じました。「下園のモモカンドン」は田の神の発生以前から信仰の対象とされ、今も豊穡と子孫繁栄を祈念して祭礼が行われているとのことでした。隣接

【 下園のモモカンドン 】



【 道野樟脳製造所跡 】



する集落との違い、また他市にも同様のものがあるとのことであり、唱えられる言葉の違いなどとても興味深いものでした。最後の「道野樟脳製造所跡」は昭和初期の比較的新しいものですが、他に現存するものが無いこと、その存在感からも、とても貴重なものだとの感想が多くありました。



市民あいさつ運動標語の募集

本市では、毎月「青少年育成の日」の前日を「市民あいさつ運動の日」と位置付け、市全体でこの運動を展開しています。市民一人一人があいさつをとおして相互の融和を図るとともに、住みよいまちづくりをめざしていくために、例年、枕崎市「あいさつ運動」標語を募集しています。

- 1 趣 旨： この運動は、日常的なあいさつを子供も大人も全ての市民で行い、子供たちが健やかに育つ明るく安全な地域社会づくりを進めることを目的としています。
- 2 主 催： 枕崎市教育委員会
- 3 応募資格： 市内の小学校、中学校、高等学校の児童生徒
- 4 作品の内容： 多くの人たちがあいさつをしようとする気持ちになるように、明るく呼びかけるもの

標記の標語募集をお願いしたところ、小学校から 737 点、中学校から 347 点、高等学校から 90 点の応募がありました。



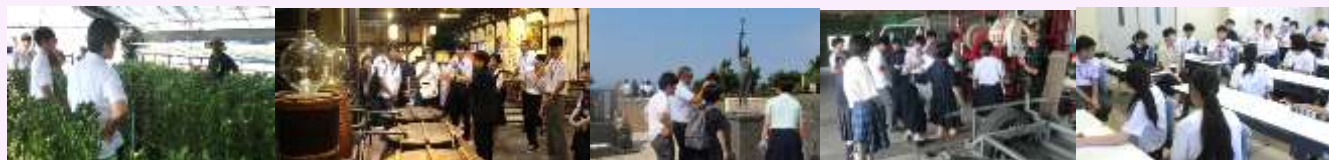
「あいさつ運動標語」ポスター

令和6年度枕崎市・稚内市青少年交流派遣事業

枕崎市と北海道稚内市が平成 24 年に友好都市盟約を締結して以来、5 年ごとに両市の青少年交流を行っています。

令和 4 年度は、本市の中高生 14 人を稚内市に派遣し、稚内市民や稚内の高校生との交流活動を実施しました。それに引き続き、令和 5 年度は稚内市の中高生が本市を訪問する予定でしたが、直前の台風襲来により事業実施を 1 年延期することとなり、今年度改めて事業を実施しました。

今回、稚内市から中学生 6 人・高校生 6 人・引率者 2 人の計 14 人が本事業に参加し、3 泊 4 日という短い期間ではありましたが、立神地区の花弁栽培（電照菊栽培）見学・焼酎蔵見学・戦艦大和慰霊碑訪問・別府地区の茶工場見学・枕崎市内の高校訪問（県立枕崎高校と県立鹿児島水産高校）・知覧特攻平和会館見学・知覧武家屋敷群見学・枕崎港まつり「きばらん海」踊り連への参加等をとおして、枕崎市民や枕崎の高校生との交流を大いに深めるとともに、「昆布」と「かつお」、「北と南の鉄道の始発・終着駅」の縁を大切にしていきながら、今後も末永く両市の青少年交流を継続していくことをお互いに誓い合いました。



- 【左から】 ① 立神地区の花弁栽培見学 ② 焼酎蔵の見学 ③ 戦艦大和慰霊碑訪問
④ 別府地区の茶工場見学 ⑤ 県立枕崎高校訪問(意見交換会の様子)



- 【左から】 ① 県立鹿児島水産高校訪問(モールス信号学習の様子) ② 知覧特攻平和会館見学
③ 知覧武家屋敷群見学 ④ 枕崎港まつり「きばらん海」踊り連へ参加したときの様子



指宿市

いぶすきはし む れ がわい せ き

指宿橋牟礼川遺跡国史跡指定 100 年記念事業

令和 6 年 12 月 9 日、指宿橋牟礼川遺跡は国史跡に指定されて 100 年の節目を迎えました。このことから、指宿市考古博物館時遊館 COCCO はしむれでは、指宿橋牟礼川遺跡の重要性や魅力をより多くの方に知ってもらうことを目的として、一年を通して、様々な事業を行いました。

5 月 5 日、子どもの日に実施した「はしむれこどもフェスティバル」では、史跡公園で古代体験【「石器売りのおじさん（古代人が石器をどんぐりと交換してくれるイベント）」、「超リアル！発掘調査体験」、「火おこし選手権」等】やマルシェなどを開催し、延べ 2,866 人の来場者で賑わいました。

また、指宿橋牟礼川遺跡の発見から発掘調査に至る過程や、火山災害遺跡としての重要性を紹介した企画展「指宿橋牟礼川遺跡国指定 100 年～日本の歴史を変えた先史時代のポンペイ～」(期間：令和 6 年 10 月 5 日～令和 7 年 3 月 2 日)を開催しました。企画展では、古墳時代の土器捨て場を再現した展示や、縄文土器の里帰り展示を行いました。さらに文化財をより身近に感じてほしいとの思いから、VR ゴグルを装着して、仮想空間に入り、考古学者の研究室で土器などを 360 度観察したり、古代住居へタイムトリップするといった VR を活用した新たな取組にも挑戦しました。



そして、11 月 24 日には、「指宿橋牟礼川遺跡国史跡指定 100 年記念シンポジウム『日本の歴史を変えた先史時代のポンペイ』」を開催し、指宿橋牟礼川遺跡の重要性と未来に向けた史跡の活用について、国内外で活躍されている 5 名の先生方を招いて講演とパネルディスカッションを実施し、延べ 582 人の方々に参加していただきました。また、オンライン配信も行い、市民だけではなく日本全国へ指宿橋牟礼川遺跡の重要性と素晴らしさを発信することができました。

今後も、指宿橋牟礼川遺跡の研究を深めるとともに、幅広い世代へ歴史的に重要な遺跡であることを発信する事業を進めていきたいと考えています。

令和 6 年度指宿市自主文化事業

指宿市民会館では、自主文化事業として多様な芸術鑑賞イベントを開催しています。令和 6 年度においては、6 月 30 日(日)に「鹿児島交響楽団指宿市特別演奏会ファミリーコンサート」、12 月 14 日(土)に「爆笑！おもしろ名人寄席」を開催しました。今後も、指宿市民会館を芸術文化の拠点としてアピールするため、また、芸術文化に触れる機会を提供するためにも自主文化事業を継続して開催し、多くの市民に親しまれる施設となるよう、魅力を発信していきたいと思います。

【鹿児島交響楽団指宿市特別演奏会ファミリーコンサート】

指揮者・オペラ歌手の方々をはじめ、約 70 名の演奏者による迫力のある多彩な演奏で、曲目も本格的なクラシックだけでなく馴染みのあるポップな音楽など幅広いジャンルでの演奏がありました。また、指宿市民から公募した合唱団とのコラボレーションがあり、「小学生から高校生の部門」と「一般の部門」に分かれて、「時代」、「365 日の紙飛行機」、「花は咲く」の合唱が披露されました。



【爆笑！おもしろ名人寄席】

三遊亭王楽師匠・三遊亭道楽師匠・三遊亭らっ好さん・翁家勝丸師匠が出演されました。三遊亭王楽師匠は、来春七代目「三遊亭円楽」を襲名される前に指宿市で落語を披露していただきました。また、落語だけでなく、翁家勝丸師匠の太神楽や、道楽師匠とらっ好さんによる舞台上での落語レクチャーもあり、舞台上で 2 名の小学生が落語の表現を体験しました。





親子で楽しむ作文教室(8/3：土 9:15～12:00)

新規事業として「親子で楽しむ作文教室」事業を開催しました。この事業は、市社会教育委員の会で提案された事業「家族で体験！マリンスポーツ in 坊津」が、天候不順やコロナ禍による中止等が続き開催が難しかったことから、家庭学習で悩みの多い作文について、親子で学習する機会を設けるために開催した事業です。

作文指導は学年の発達段階に応じた指導が必要との認識から、小学校・義務教育学校（6年生まで）を対象に募集し6家族13名が参加しました。学習は、①自己紹介（名前で「折り句」に挑戦）②〈詳しく書くときの「合い言葉」〉③演習 ④書き広げ方 ⑤コンクール作品に学ぶ ⑥表記指導 など、講師（池田千鶴先生）の作成した資料や、具体的事例の作文を参考に進められました。

参加した家族からは、「折り句で言葉を調べながら自己紹介を作るのが楽しかった。合い言葉は次に作文を書くときに使いたい。」、「子どもが最初は緊張していましたが、声掛けをしていただき、場に慣れてくれました。」、「色んなアドバイス、指導をいただいたので、作文と一緒に頑張りたい。」など、作文教室で学んだことを今後生かしていきたいといった積極的なものが多く見られました。親子で話合いながら、楽しく学べた作文教室でした。



【開会式：講師紹介】



【折り句で自己紹介】



【合い言葉】



【気持ちを生かした
書き広げ】

南さつま市生涯学習推進会議&県民大学講座(8/7:水 10:00～12:00)

本市では「生涯学習体制の充実に向けて」のテーマのもと、これまで関係各課・社会教育施設・企業・NPO法人・社会教育関係団体等が実施している学習講座等の確認や地域人材リスト等を作成してきました。また、「南さつま市の生涯学習」(冊子)を作成し、南さつま市の現状や生涯学習の推進について学びを深めてきました。

本年度、県民大学中央センターと連携し、県民大学講座を開催する機会を得ましたので、改めて「本市の生涯学習体制及び内容の充実は、どう進めれば良いのか」などについて学ぶ機会を設けました。委員への委嘱状交付と現状報告の説明の後、「地域で共に生き続けるための生涯学習を創造する」の演題で、鹿児島大学の小栗有子教授にご講演をいただきました。

「生涯学習の概念は、歴史的に形成され、その理解には様々な立場や考えがあり、時代や地域の文脈に即して捉え直すことが必要である。」として、今後の南さつま市へのヒントとなる「家族・地域・就業場所のバランス」、「統合の考え方」など、人づくり・まちづくりに寄与する「生涯学習推進会議」への示唆を頂いたように思いました。



【委嘱状交付】



【自作資料で説明】



【真剣に学ぶ参加者】



【小栗教授に質問です！】



第43回南九州市高校生ふるさと大会

令和6年8月3日(土)、知覧平和公園周辺にて、高校生ふるさと大会が開催されました。

本大会は、南九州市高校生クラブに所属する高校生が中心となり毎年開催しているもので、高校生による自主的な発案で企画・準備し、ボランティアなどの地域貢献活動をとおして、進んでふるさとづくりに参加する青少年の育成を図るものです。

今年は、県立薩南工業高校の家庭クラブに所属する生徒も一緒に参加し、会場周辺の落ち葉集めや石灯ろう磨き、一人暮らしの高齢者への残暑見舞い書きといったボランティア活動を行いました。

また、一般の市民や観光に訪れた方々に向け、能登半島地震災害義援金の募金活動や冷たい知覧茶のふるまい活動を協力して行い、お互いに交流を深めることができました。

参加した生徒からは、「声かけをするのは緊張したが、良い経験になった。」、「この活動が地域の役に立てれば嬉しい。」などの声を聴くことができました。今後も、様々な活動に自主的に取り組み、ふるさとの素晴らしさを再発見するとともに、地域に貢献する心を大事にしていきたいです。



【石灯ろう磨き】



【募金活動】



【全体集合写真】

南九州市自主文化事業 マスクプレイミュージカル「ピーターパン」開催

令和6年11月28日(木) marukawa ホール(川辺文化会館)にて、コロナ禍により6年ぶりとなったマスクプレイミュージカル「ピーターパン」が開催され、当日は503人の観覧がありました。

この事業は、幼いころから優れた舞台芸術の鑑賞機会を提供し、子どもたちの情操教育の一環に寄与するとして、合併前の川辺町時代から積極的に取り組んできた事業です。今回は、南九州市、南さつま市、枕崎市の3地区の幼稚園や保育園、認定こども園等に案内し、21園の子どもたちに鑑賞してもらいました。

子どもたちは、大掛かりなセットと煌びやかな照明の中、馴染みのある物語のキャラクターが、歌って、踊る楽しい舞台を堪能していました。特にピーターパンやティンカーベル等が、空中を飛ぶ場面では大きな歓声が上がっていました。ロビーにも写真スポットも設置され、にぎわっていました。

舞台芸術体験だけでなく「入口で入場券の半券をちぎってもらって入場する」、「開演前に会場が段々暗くなる」、「目の前だけが明るい空間の中に友達と並んで座る」といった、日常とは異なるドキ

ドキ感や緊張感といった多くの体験ができたと思います。

園の方からも「とても楽しんでいた」、「また来年も見たい」等の多くの感想が寄せられました。



枕崎市

はりますぎはら
播磨相原

昭和 50 年 5 月 8 日 (市指定)

捨ておぶねの著者都の錦が鹿籠金山に配流中に書いた武家物語。播州赤穂の城主浅野長矩が江戸城において刃傷に及んだ顛末から、大石ら 47 人が仇を討つまでを、講談風にあつかったもの。昭和 55 年 12 月、長崎大学助教授若木太一氏により翻刻され、同月 15 日発行の「江戸時代文学誌第一号」によって全国に紹介された。播磨相原は他に東北大学狩野文庫、静嘉堂文庫、額原文庫などがあるが、いずれも写本で、この播磨相原が都の錦の自筆の原本とされている。



指宿市

いぶすきはしむれがわいせき
指宿橋牟礼川遺跡

大正 13 年 12 月 9 日 (国指定史跡)

指宿橋牟礼川遺跡は、大正 5 年 (1916) に旧志布志中学校 (現在の志布志高等学校) に通う指宿出身の折田盛健 (旧姓：西牟田) によって発見されました。その後、日本考古学の黎明期であった大正 7・8 年、京都帝国大学 (現在の京都大学) の濱田耕作博士らによって発掘調査が行われました。その結果、開聞岳の火山灰層を是んで上の層から弥生土器、下の層から縄文土器が出土したことによって、縄文土器が弥生土器よりも古い時代のものであることが日本で初めて証明されました。現在では常識となっている縄文時代と弥生時代の新旧関係は、このようにして明らかになったのです。この成果から、大正 13 年 (1924) 12 月 9 日、指宿橋牟礼川遺跡は国の史跡に指定されました。

また、濱田耕作博士は、指宿橋牟礼川遺跡の火山災害遺跡としての性格を予見し、イタリアのポンペイ遺跡に喩えて「先史時代のポンペイ」と呼びました。

その後、指宿橋牟礼川遺跡の発掘調査が本格的に行われたのは昭和 50 年代から平成初めのことでした。発掘調査を進めると、西暦 874 年 3 月 25 日 (貞観 16 年 3 月 4 日) の噴火によるものとされる開聞岳の火山灰で埋もれた平安時代のムラがまるごと発見されたのです。濱田耕作博士が予見した通り、まさにイタリアの世界遺産ポンペイのように日本を代表する火山災害遺跡としても知られるようになりました。さらに下層へ掘り下げると古墳時代の地層からおびただしい数の住居跡に加え、大量の土器や石器が見つかり、鹿児島県を代表する古墳時代の大集落であることも明らかになりました。

このように、国指定史跡「指宿橋牟礼川遺跡」は現在、日本の歴史を変えた遺跡、そして、日本を代表する火山災害遺跡として、とても重要な遺跡となっています。



南さつま市

ろくじぞうとう 六地藏塔

昭和29年5月24日(県指定史跡)

南さつま市加世田武田の上鴻巣には“島津中興の祖”と呼ばれ、日新公いろは歌の作者としても知られる戦国武将、島津忠良（日新斎）〔1492-1568〕ゆかりの六地藏塔が残されています。

島津忠良は、戦いで亡くなった人々のために六地藏を建立し、六地藏の前で、忠良も出席して大施餓鬼（戦亡施餓鬼）が行われたと伝えられています。その後、忠良が建立した六地藏は倒壊したため、忠良の菩提寺であった日新寺の八世住持・泰圓守見によって石塔が再興されました。

現存している石塔は、三重の笠（屋根）が設けられた層塔で、軸部には諸仏等が彫刻されており、軸部の部材のうち、六角柱状を呈する部材（側面が六面になっている部材）には、一側面に一体ずつ、合計六体の地藏菩薩（六地藏）が彫刻されています。昭和29年（1954）には、鹿児島県の文化財（史跡）に指定されました。



南九州市

あつちまつやませいてついでせき 厚地松山製鉄遺跡

平成14年4月23日(県指定史跡)

厚地松山製鉄遺跡は、江戸時代後期の製鉄遺跡です。平成7～11年の発掘調査により、水車台や石組みによる製鉄炉と炉壁、鍛冶炉が発見され、生産工程が明らかになりました。江戸時代、砂鉄を原料として鉄を生産するには、砂鉄を溶かすために大量の木炭を必要としました。当時、一般的には、火力を高める方法として、箱型の装置の上の板を足で踏み、風を炉に送る「たたら製鉄」が主流でした。ところが、薩摩藩では人力ではなく水車動力によって風を送る方法が行われていたのです。そのため、製鉄遺跡は、木炭の供給地である山間地にあつて、水車を回すことのできる川沿いに立地しています。市内には他にも知覧・川辺の山間地に製鉄遺跡が存在している他、金鉱石の製錬や骨粉肥料、水力発電や揚水施設などにも水車が利用されていました。

令和7（2025）年は、世界遺産「明治日本の産業革命遺産」が登録されてから10周年を迎えます。幕末の薩摩藩が、集成館事業で西洋技術を取り入れた溶鉱炉を建設できた背景には、このような在来の水車技術の存在があったのです。

